分科会 2-2

世田谷でのみどりのまちづくりの変遷と可能性
～みどりを通したコミュニティ形成への展開～

世田谷での住民との協働によるみどりの取り組みは、都市化とバブル景気に伴う緑被率の低下を背景に、1989 年に設立された「せたがやトラスト協会」にまで遡ることができる。世田谷区の外郭団体である協会は、自然環境や歴史的文化遺産を次世代へ引き継ぐことを目的に都市型のトラスト運動を推進する組織として、その普及啓発とボランティアの育成を進めてきた。公園緑地だけでなく市民緑地など民有地のみどり保全に取り組んできたのが大きな特徴である。現在は「世田谷トラストまちづくり」として、グリーンインフラの推進や農福連携等、事業の幅を拡大している。

一方、住民発意の新たな動きとして「タマリバタケ」と「シモキタ園藝部」に着目したい。タマリバタケは区有地を畑として活用した事例である。地域とのつながりづくりを目的に、誰でも立ち寄れるタマリバを設けている。シモキタ園藝部は小田急線の地下化によって生まれる線路跡地を緑化したいという住民の声が契機となって発足した。開発によって大きく変わる下北沢を拠点に線路跡地の植栽を管理している。両事例とも、みどりをともにする暮らしを生み出し、まちと住民、住民同士をつなごうとする取り組みである。

トラスト運動を推進する中間支援組織として協会、トラストまちづくりは何を生み出したのか。そして住民は今、まちをどのように捉え、なぜみどりを通してコミュニティ形成を図ろうとしているのか。本分科会では中間支援組織に属する者と、住民発意の団体に属する者を招き、どのような想いで取り組みを進めてきたのか話を伺う。世田谷での 30 年の変遷を追い、都市におけるみどりの価値を再確認した上で、みどりを通したコミュニティ形成の可能性を議論したい。

成城三丁目なかんだの坂市民緑地

タマリバタケ

シモキタ園藝部

2023 年 7 月 2 日（日曜日）13 時～14 時 30 分
東京都市大学世田谷キャンパス 7 号館（1 階 71B）

●登壇

・**荒井千鶴（一般財団法人世田谷トラストまちづくり　トラストみどり担当係長）**
平成 7 年、トラスト協会に入職。野鳥調査や花づくり、公園緑地保全など、区民ボランティアとともに場の管理運営やコーディネートに携わる。途中 5 年間、空き家等地域貢献活用相談窓口の立ち上げなど住民まちづくり支援にも従事。近年は市民緑地、次大夫堀公園内里山農園、自分でもできる雨庭の普及などを管轄。

・**asaco（NPO 法人 neomura　理事／タマリバタケ）**
モデル、ライター、4 児の母。用賀在住 16 年、地域とのつながりが皆無だったのが、コロナ禍に「チーム用賀」と運命的に出会い、タマリバタケ発足時から運営に携わる。2023 年より NPO 法人 neomura の理事に。タマリバタケではコーディネーターを担当しつつ、ライターとして情報発信も行なっている。

・**柏雅弘（一般社団法人シモキタ園藝部　代表理事）**
下北沢の街に緑が少なく緑陰が無い現状を変えていこうと、北沢 PR 戦略会議（現 シモキタリングまちづくり会議）内で、みどり部会の世話人として街の緑化推進活動に取り組む。これを発展させるかたちで、シモキタ園藝部を仲間と共に立ち上げ、街の植栽管理や養蜂、コンポスト等様々な活動に取り組んでいる。シモキタフロント株式会社代表取締役。

・コーディネーター：**土屋薫（江戸川大学現代社会学科　教授）**
千葉県流山市のオープンガーデンを足がかりに、個人のライフスタイルの発露と共有資源としての可能性を持つ日本のオープンガーデンが研究対象。web-AR を利用したサイン・情報提供による関係人口づくりも手がける。江戸川大学現代社会学科教授、コミュニティ政策学会理事、日本レジャー・レクリエーション学会理事。

・ファシリテーター（進行）：**山田翔太（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）**
住居学と造形学を学び、平成 25 年に世田谷トラストまちづくりに入職。既存住宅を活用した交流の場の創出など住民主体のまちづくり活動を支援するコーディネート業務に従事。東京都市大学大学院博士後期課程、武蔵野美術大学通信教育課程非常勤講師。